

羽ばたこう 明日へ

令和5年3月発行 第21号



酒田市スポーツ少年団本部指導者研修会



酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部大会（野球）



酒田・遊佐スポーツ少年団交流大会



酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部大会（バレーボール）

日頃より団の運営に際しましては、指導者や保護者、関係者の皆様方より多大なるご協力とご支援をいただいておりますこと感謝申し上げます。

コロナワクチン接種率の増加に伴い発生状況は落ち着きを見せておりますが、予断を許さない状況下にあります。国は3月13日より新型コロナウイルス感染症に対するマスク着用の義務を自主判断とし、5月8日からインフルエンザと同等の扱いとすることを決定しました。しかし、どちらも感染症には変わりなく、うがい、手洗い、消毒等の実施を行わなければなりません。今後の団活動においては、団員、保護者、指導者の体調管理を徹底し、活動のリスクを踏まえたうえで、時には活動を休む勇気が必要だと考えています。

少子化の中、団運営は厳しい状況が続きますが、子ども達の体力低下を防ぐためにも「スポーツ少年団理念」を厳守しながらのご協力をお願いいたします。また中学校における運動部活動の地域移行についても、各地区の状況を鑑みながら、地域のスポーツ少年団としてご協力を賜りますようお願い申し上げます。



酒田市スポーツ少年団本部

本部長 齋藤 勉

本部長あいさつ

運動習慣の形成と健康な生活の土台づくりに



酒田市小学校体育連盟会長
(酒田市立浜中小学校校長)

金子 尚

スポーツ少年団で指導や運営に携わっている皆様におかれましては、日頃より子ども達の健全育成にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、昨年はサッカーW杯カタール大会での日本チームの活躍に、日本中が沸きました。ベスト8という「新しい景色」にはあと一步のところまで届かなかったものの、選手の素晴らしいプレーに感動し、勝利を目指して諦めないひたむきな姿に勇気や元気をもらった人は多かったと思います。サッカーの面白さとともに、スポーツが持つ魅力と価値を改めて感じた28日間となりました。

そんな熱狂と興奮が冷めやらぬまま迎えた令和5年。日本で新型コロナウイルス感染症の患者が確認されたから3年が経ちました。この間、学校では子ども達の健康と安全を最優先に考えて、日常的に感染予防に取り組み、感染拡大状況によっては臨時休業や学年・学級閉鎖などの措置をとりながら教育活動を展開してきました。大きな学校行事の一つである運動会を見直し、感染予防に配慮した新しい種目を考えたり、やり方を工夫したりしながら実施したところもありました。このような状況の中でのスポーツ少年団活動の運営には、大変なご苦労があったことと拝察いたします。

子どもの体力・運動能力の低下が心配され、運動する子どもとそうでない子ども

もの二極化傾向が指摘されている中、スポーツ少年団は、子ども達が日常的に運動に親しみ、運動の楽しさを体験できる場になっています。

スポーツ少年団の練習や大会の応援に行くと、日頃の学校生活では気付かなかった子ども達の一面を見つけることがあります。学校ではおとなしいと思っていた子が、大きな声を出しながら積極的にプレーしたり、仲間と協力し励まし合いながら一生懸命に走ったり動いたり……。そんな姿を見ると、子どもの成長には、学校も含めた様々な環境の中で、多くの人と関わりながら、いろいろな活動や経験を積むことが大切であることを改めて感じます。

また私自身も、小学校3年生の時にスポーツ少年団に加入してから現在に至るまで、様々なスポーツに親しんできました。今は怪我を心配しながら運動している状況ですが、年齢を重ねても体を動かして汗を流したり、いろいろな人と関わって活動したりするのが好きなのは、スポーツ少年団での活動がきっかけになったと思っています。私にとっては、スポーツ少年団が生涯スポーツへの大きな入り口となり、そこでの活動を通して、人間関係を構築する基礎を身に付けたように思います。

このように、スポーツ少年団活動は、技術や体力の向上、仲間との連帯や友情協同性や創造性などの「心・技・体」の育成に大きな役割を果たしています。

これからも、スポーツ少年団活動が、子ども達の生涯にわたる継続的な運動習慣の形成につながり、心身ともに健康な生活を支える土台になることを願っています。今後とも、皆様のお力添えの程、よろしくお願いいたします。

スポーツ少年団の新時代を拓くために



課外教育事務内
社会体育会
庄内教育事務所

志田 和彦

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な制限の中でスポーツ少年団活動を行う難しさが続きました。秋以降は少しずつ感染の拡大も落ち着き始め、制限が緩和されつつある中でも感染症対策を講じて活動していただき、感謝申し上げます。

日本スポーツ少年団では、令和3年4月にスポーツ少年団を取り巻く状況を把握するために「スポーツ少年団緊急対策プロジェクト」を設置しました。令和4年2月には報告書が発表され、5月にはスポーツ少年団の抱える課題を解決するために、アップデートした「スポーツ少年団改革プラン2022」を作成しました。その中にある「勝利至上主義の否定」という内容があります。この意味を指導者の方々や保護者の方々、スポーツ少年団活動に関わる大人が正確に理解する必要があります。言葉としては「勝ち負けが重要ではない」や「勝つことが目標ではない」という捉え方をしたいというようになります。しかし、改革プランには次のような説明があります。

『スポーツは勝敗を競うものであり、勝利を目指すことは否定されるものではありません。試合に勝つために活動することや、よりうまくやりたいといった活動も含め、競技力向上の取組も否定されるものではありません。』勝利至上主義

「上主義」とは勝つことのみをこの上ないものとする考え方で、勝つためには子どもの発育発達を考慮しない過度な練習や暴力・暴言等の不適切な指導が容認されるなどの弊害をもたらすものです。』(※抜粋)

勝つことは目標となり、やる気につながることもあります。負けて学ぶこともあれば、勝たなければわからないこともあると思います。負ける悔しさを知っているからこそ、勝つ喜びが言葉にならないこともあると思います。しかし、勝つことがすべてではありません。勝てばいいというわけでもありません。勝たなければならぬという重圧は、子どもの心身に大きな影響をもたらすこともあります。

スポーツ少年団は、特定の競技の活動に限定されるのではなく、様々な競技や活動を通して、こころから育て、地域づくりに貢献することを理念としています。子ども達の活動を支える指導者・保護者・地域が連携することで、スポーツ少年団の新時代が拓かれると思います。その一つが、中学校の休日部活動の地域移行です。子ども達のこころから育て、地域に貢献する理念をもち、様々な資格を持った指導者がいるスポーツ少年団は部活動の受け皿となる可能性が十分に考えられます。近年続いていた団員や指導者の減少も改善することが期待できます。スポーツ少年団の新時代には、多くの可能性と様々な選択肢がまだまだあると思います。

終わりに、酒田市スポーツ少年団のこれまでの長年にわたる実績や経験を生かし、益々の発展を心より祈念申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大きな声で元気よく

剣道専門部会長 吉川 文彦

コロナ禍において様々な制約の中、各種目のスポーツ少年団で活動されている皆様、本当にご苦勞様でございます。

剣道という競技は大きな声での発声により自分を鼓舞し、相手との間合いをはかり気合を込めて打ち込むその反復が稽古であり、心身を鍛錬し競技力の向上につながります。しかし、コロナ禍においては密閉・密集・密接の3つの密を避ける行動が感染対策とされました。剣道においては、面の口元部分にシールドをほどこし、マスクをつけ面を装着し、お互いの体が触れ合う状況ではすぐに分かれるようにするという通達が全日本連盟から届きました。これらを遵守したうえで稽古などを行うと、暑い時期は窓を開けることで密閉は避けることができますが、マスクの着用が負担となります。反対に寒い時期はマスクの着用は許容できませんが、窓を開けての換気が大きな負担となります。子ども達の体調や健康面を考えると非常に難しい状況でした。

その状況においても、子ども達は大きな声で元気よく稽古に励みました。ほとんどの競技者はマスクを着用しての剣道は経験がありません。剣道は大きな声での発声なくして成長はないと考えております。相手への感謝とリスペクトは声に表れるからです。そのため全ての指導者は子ども達に「大きな声で元気よく」を要求します。子ども達は本当に頑張りました。そのような子ども達の稽古風景や試合などを見てみると、子ども達への尊敬とチームを超えて応援する気持ち湧き上がります。「我以外皆師」とはよく表現されていて子ども達から教わっていると自覚する日々であります。

本部大会も47回を重ねることになりま



した。令和2年度は中止せざるをえず、酒田市体育大会を含め対外的な交流や大会などはほぼ中止となりました。

今年度の本部大会の出場団員の状況を見てみると、酒田市と遊佐町を合計して50名を割り込み、酒田市は30数名となりました。出場要件をここ数年で大幅に緩和させてきましたが、スポ少単体単独での出場が困難な団体が増加し、団体戦では合同チームを編成しての開催となり、長年危惧されていたことですが団員不足状態が深刻です。

スポーツ少年団は継続することが重要だと考えます。地域の子もだけでなく全ての子ども達が剣道を含めスポーツを楽しむ事ができる活動方針や運営を考え直す時期にさしかかっているように思えます。「交剣知愛」剣道を志した全ての子ども達、スポーツ少年団に属する全ての団員の皆様の健やかな成長と活躍を願うとともに、関係者の皆様に感謝申し上げます。

スポーツ少年団卓球の現状について

卓球専門部会長 石黒 昌弘

全世界的に流行した新型コロナウイルス感染症が大分落ち着いてきて、以前のように大会が開催されるようになってきました。まだまだ感染予防の対応をしなければいけません、良い兆しだと感じています。

自分が卓球専門部員になってから25年以上になります。その間の変化として少子化やスポ少加入率の低下により、卓球の団員数が300人弱いたのが、100人を切ったから数年経ち、微減が続いています。

団員確保については、各団の努力やオリンピック等でのトップ選手の活躍により知名度が高まったことなどがあり、何とか微減で収まっているというのが実情でしょうか。ただ、嘆いてばかりではこの状況は変わりなく減少に拍車がかかってしまいます。

卓球は個人競技であるので団体競技ほど団員確保の必要性がないのではと考えられがちですが、団員確保は競技力の維持やチームとしてのモチベーションの確保などに影響を及ぼすため、重要な意味があります。

また指導者が参加したいな、ぜひ指導したいなと思える魅力あるチームということも重要なことであると考えます。魅力あるチームであるためには保護者の力も重要です。練習会場の確保、鍵当番、練習や大会における団員の送り迎え、練習に集中するための球拾い。また団活動としての各種イベントなどです。

ただこれらのことは今までも実施してきたことでもあります。だとすれば、打開するためにはもっと別な視点で考えていくことが必要だと思えます。

それは、新たな指導者。特に若い指導者が必要なのではないのでしょうか。指導



方法について今までの考え方が悪いというわけではありませんが、変化しなくても良いというものではないと考えているため、より柔軟な思考ができることが重要であると思います。そういった意味で若い指導者と書きましたが、要は現指導者でも新しい技術や時代に合った指導内容などの考え方を率先して取り入れることが出来るのであれば、当然のことながら若い指導者に固執するものではありません。

以上のことは、少年団が持続していくのに必要なことと日頃思っていることであります。なにより子ども達が楽しく活動できること、卓球を好きでいることが大切であり、そのことを忘れなければ良いのではないかと思います。

最後になりますが、日頃ご尽力いただいております指導者、保護者をはじめとするスポーツ少年団関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、今後とも卓球専門部会をよろしくお願い申し上げます。

日清カップ全国小学生陸上競技交流大会に参加して

SRKジュニアクラブスポーツ少年団 菅原りさ



〔出場大会〕
日清食品カップ
第38回全国小学生陸上競技交流大会
令和4年8月19日～21日／神奈川県

私にとって全国大会は2年連続の出場です。前は自己ベストを出せずに悔しい思いをしたので、今年こそは必ず納得できる走りがしたいと強く思っていました。けれども、昨春はコロナの関係で練習開始が遅くなったり、私自身がけがをしてしまったりで、十分な練習ができず、なかなかいい走りができませんでした。焦りと戸惑う気持ちをもちながら、なんとか県大会を突破し、全国大会に出場することができました。

全国大会が近づいてきました。コーチには「もっと記録が伸びるはず。」と言われていたので、私たちは県大会の記録を更新し、全国大会の予選を突破する目標を掲げました。

本番は緊張しましたが、コロナやけが、うまくいかなかったことを乗り越えてきたせいも、楽しもうという気持ちでレースに臨むことができました。レースはあっという間でしたが、私達は掲げた目標を達成するだけでなく、山形県新記録を出すことができました。とても満足でした。陸上は個人競技ですが、お互いを信じ合い、声を掛け合っ



てがんばってきたことが良い結果に繋がったのだと思います。みんなでハイタッチをして喜んだこと、そして全国の陸上をする仲間と出会えたことは、最高の思い出になりました。

最後に、コロナ禍で大変な中、指導してくれたコーチ、大会を開催してくれた関係者の方に感謝したいです。私は、この経験を生かして中学でも陸上競技を続けていきたいです。

全 国 大 会 出 場 !

泉のバスケ

泉ミニバスケットボールスポーツ少年団 阿部 湊



〔出場大会〕
第54回全国ミニバスケットボール大会
令和5年3月28日～31日／東京都

僕は、1年生からバスケットを始めました。4年生までは人数が少なく、あまり勝てなかったですが、試合に出ることが何よりも楽しかったです。5年生の時は、6年生がいらない中、初めて県大会に出場することができました。1回戦で負けてしまいましたが、県大会の特別な雰囲気を感じることができました。

6年生になり、県大会で優勝することが目標になりました。しかし、最初の地区新人大会で、新堀スポ少に1点差で負けてしまいました。6年間で一番悔しかったですが、それから練習の雰囲気が変わり、絶対に次は勝つという思いが強くなりました。

泉スポ少の良い所は、高さがあって、ディフェンスと球際が強く、速攻を出せるところだと思います。またシュートルも高く、お互いに仲間を信じ合えるところですね。夏頃からは、カップ戦や強豪チームとの練習試合を重ねたことで、チームワークもよくなり、まとまってきました。

県大会では、山形地区の強豪との対戦が続きました。大きい人がたくさん



いて緊張しましたが、僕も得点に貢献することができました。決勝はわかたけと戦い、1点差で勝ち優勝することができました。

3月30日・31日は、東京都の代々木体育館で全国大会があります。予選リーグまでしかありませんが、負けたチームや支えてきてくれた人の想いを背負い、全勝したいです。そして、泉スポ少のバスケットを全国の人に見せたいと思います。

令和4年度酒田・遊佐スポーツ少年団交流大会

2月18日(土)に、酒田市武道館にて「第49回酒田・遊佐スポーツ少年団交流大会」を3年ぶりに開催し、酒田市から20名、遊佐町から2名の計22名が参加しました。

本事業は本市と遊佐町の交流を図るため、2市町の共同事業として開催され、来年度には第50回を迎えます。過去にはそば打ち体験やボウリング大会など、様々なテーマで開催されてきました。今大会では本市のスポーツ推進委員会、体育振興会の方々からご協力いただき、ニユースポーツをテーマとしてフロアカーリングとモルックの2競技において交流戦を実施しました。

交流戦では、子ども達で教え合いながらゲームを進める姿や、子どものチームに混ざって保護者も一緒にプレイしている姿が見られました。



▲フロアカーリングの様子

大会終了後は、参加賞としてお菓子と文房具の詰め合わせを配布しました。交流戦を経て、他のスポ少団員と仲良く話をする子の姿が見られ、交流を深められた有意義な交流大会となりました。

●フロアカーリングとは

氷上で行うカーリングを基に考案された室内競技です。カーリングのストーンにあたる「フロッカー」にキャストが付いており、床面を滑らせターゲットに相手より近づけることで得点を競います。

●モルックとは

フィンランドにあるカトレア地方の伝統的なゲームを基に開発された競技です。「モルック」と呼ばれる木製のピンを倒し、得点を競います。



▲モルックの様子

令和4年度酒田市スポーツ少年団本部指導者研修会

3月4日(土)に、ル・ポットフーにて「令和4年度酒田市スポーツ少年団本部指導者研修会」を開催し、スポ少に登録している指導者など18名が参加しました。今回は、日本体育大学体育学部教授で日本スポーツ協会公認コーチトレーナーとして活躍されている伊藤雅充先生を講師としてお迎えし、「プレイヤーズセンタードコーチングで子どもたちのワクワクを引き出そう」というテーマで講演していただきました。

講演では、「プレイヤーズセンタード」の考え方、話し方や質問の仕方を意識することなど、例題やグループワークを交えながら分かりやすく講義していただきました。

トレーニング内容が同じでも、「誰」が「どのように」指導するかで効果は異なる。では、どのようなことに気をつければ良いのか、主な内容のまとめは次のとおりです。

●指導方法

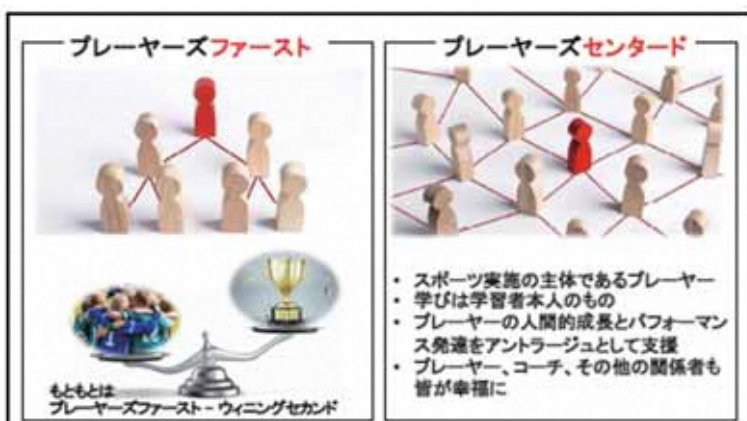
「やらされる」から「やりたい」状態にさせる。そのためには、子どもにこ褒美を与えて動かそうとしたり、怒鳴ったりしないことが大切。次からは怒鳴られないようにしようなど、目的が変化したり正常な判断ができなくなったりする。また子どもに自分を重ねないこと。自分の果たせなかった夢を押し付けたり、練習を強要したりすると「やらされる」状態に繋がる。

●成長的マインドセット

物事をできるかどうかで捉えるのではなく、どうすればできるかという考え

方を養う。そのためには「はい/いいえ」で答えられる質問ではなく、「何を考えたか」「どのように考えたか」のように、本人が考えるように問う。コーチングはすべてを教えるのではなく、本人の気付きを引き出すために「黙る」ことも重要である。

研修会では講師の言葉に大きくうなずく指導者の姿が見られ、指導の在り方について学ぶ姿勢がうかがえました。



▲プレイヤーズセンタードの考え方 (研修会資料より抜粋)

酒田市スポーツ少年団本部は指導者研修会を毎年開催しています。講演内容について要望があれば、ぜひ市スポ少本部へお知らせください。

令和4年度 事業報告

	事業名	期 日	会 場
大会	第50回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部サッカー大会	7月16日～17日	庄内空港緩衝緑地運動広場 183名
	第50回 同 野球大会	7月16日～18日	光ヶ丘野球場、泉小学校グラウンド 200名
	第49回 同 バスケットボール大会	8月13日～14日	国体記念体育館 240名
	第53回 同 卓球大会	8月21日	酒田市体育館 65名
	第43回 同 バレーボール大会	8月28日	国体記念体育館 113名
	第47回 同 剣道錬成大会	8月28日	国体記念体育館 53名
	第30回県少年少女スポーツ交流大会	10月3日主会期	県内各地
	第49回酒田・遊佐スポーツ少年団交流大会	2月18日	酒田市武道館 22名
研修関係	第5回ジュニアスポーツフォーラム	6月12日	赤坂カンファレンスセンター(東京都) 3名
	シニア・リーダーズスクール	8月9日～12日	オンライン開催 不参加
	第58回山形県スポーツ少年大会【中止】・ジュニアリーダーズスクール	8月10日～11日	金峰少年自然の家(山形県) 1名
	第53回東北ブロックスポーツ少年大会【中止】	8月4日～6日	会津自然の家(福島県)
	第60回全国スポーツ少年大会	8月4日～7日	南薩少年自然の家(鹿児島県) 不参加
	庄内地区協議会研修会 兼 県指導者・育成母集団研修会	11月12日	公益研修センター 14名
	スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会	10月23日	いろり火の里なの花ホール(三川町) 18名
	スタートコーチ(スポーツ少年団)インストラクター移行研修会	10月～11月	東北会場(仙台) 1名
スタートコーチ(スポーツ少年団)インストラクター養成講習会	11月19日～20日	不参加	
市スポーツ少年団本部指導者研修会	3月4日	ル・ポットフー 18名	
講習会	指導者講習会・技術指導講習会	7月30日・11月12日 1月7日・2月25日 3月12日	バレーボール 131名、剣道 48名 バスケットボール 31名、サッカー 35名 卓球 49名
	表彰	酒田市スポーツ少年団本部表彰式 県スポーツ少年団表彰式	4月24日 11月12日
会議	本部員会、常任委員・専門部会長会議、指導普及委員会 本部代議員会 庄内地区協議会理事会 庄内地区協議会代議員会 市町村スポーツ少年団事務担当者会議	随時開催 4月24日 5月13日・2月6日 5月13日 3月10日	ル・ポットフー 庄内総合支庁分庁舎 庄内総合支庁分庁舎 県スポーツ会館

令和5年度 事業計画(案)

	事業名	期 日	会 場
大会	第51回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部サッカー大会	7月15日～16日	庄内空港緩衝緑地運動広場
	第51回 同 野球大会	7月15日～17日	松山多目的運動広場 他
	第54回 同 卓球大会	8月11日	酒田市体育館
	第50回 同 バスケットボール大会	8月19日～20日	八幡体育館
	第44回 同 バレーボール大会	8月27日	八幡体育館
	第48回 同 剣道錬成大会	8月27日	平田B & G 体育館(全館)
	第31回山形県少年少女スポーツ交流大会	10月1日主会期	県内各地
	第50回酒田市・遊佐町スポーツ少年団交流大会	2月	未定
研修関係	※第6回ジュニアスポーツフォーラム	6月18日	東京都
	ジュニアリーダーズスクール	7月28日～30日	山形県青年の家
	第61回全国スポーツ少年大会	8月4日～7日	兵庫県
	第59回山形県スポーツ少年大会・第54回東北ブロックスポーツ少年大会	8月8日～10日	神室少年自然の家(真室川町)
	シニアリーダーズスクール	8月9日～12日	国立中央青少年交流の家(静岡県)
	スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会(対面)	9月23日	県内4会場(庄内:いろり火の里なの花ホール)
	スタートコーチインストラクター養成講習会(オンライン+対面)	9月～10月(講義・検定試験)	
	※スタートコーチインストラクター移行研修会	11月26日(グループワーク)	グループワーク会場:山形県スポーツ会館、新庄市民文化会館
スタートコーチインストラクター養成講習会	10月～11月	全国3会場	
※アクティブチャイルドプログラム普及促進研修会	10月～11月	東京都	
市スポ少本部指導者研修会	12月2日	県内4会場(庄内:三川町)	
※県スポ少指導者・育成母集団研修会	2月 未定	未定 未定	
講習会	指導者講習会・技術指導講習会	未定	サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、剣道、卓球
表彰	酒田市スポーツ少年団本部表彰式 日本スポ少顕彰伝達式・県スポーツ少年団表彰式	4月16日 未定	ル・ポットフー 未定
会議	本部員会、常任委員・専門部会長会議、指導普及委員会 本部代議員会 庄内地区協議会理事会 庄内地区協議会代議員会 市町村スポーツ少年団事務担当者会議	随時開催 4月16日 5月19日・2月6日 5月19日 3月	ル・ポットフー 庄内総合支庁分庁舎 他 庄内総合支庁分庁舎 他 県スポーツ会館

※JSPO公認スポーツ指導者資格更新研修を兼ねる

令和4年度 酒田市スポーツ少年団本部登録団一覧表

No.	単位団 No.	少年団	代議員	団員数	指導者数	No.	単位団 No.	少年団	代議員	団員数	指導者数
1	001	琢成サッカー	佐藤 徹	11	2	42	151	宮野浦サッカー	佐藤 淳一	22	3
2	003	琢成ミニバスケットボール	齋藤 浩二	8	2	43	152	宮野浦野球	加賀屋祐一	13	8
3	005	琢成剣道	佐藤いつ子	11	4	44	153	宮野浦ミニバスケットボール	田代 正樹	30	2
4	006	琢成卓球	加藤 弘良	7	3	45	154	宮野浦バレーボール	小寺 由一	19	2
5	011	浜田サッカー	竹内 大	8	2	46	155	宮野浦剣道	中津 治	3	2
6	012	浜田野球	菊地 真一	16	10	47	179	平田ミニバスケットボール	高田 裕之	10	5
7	013	浜田ミニバスケットボール	岸 幸恵	12	2	48	189	ひらた卓球	庄司 学	4	2
8	039	富士見	佐藤 健	56	18	49	192	鳥海野球	池田 俊克	12	9
9	041	亀ヶ崎サッカー	林賀 一郎	15	2	50	194	鳥海バレーボール	白幡 春喜	15	3
10	042	亀ヶ崎野球	村上 範昭	16	8	51	196	鳥海八幡卓球	島田 純	1	2
11	043	亀ヶ崎ミニバスケットボール	芳賀 久男	34	3	52	217	アテネ体操クラブ	五十嵐直基	20	2
12	044	亀ヶ崎ミニバレーボール	蛭原 秀子	15	2	53	237	酒田ジュニアソフトテニス	遠田 貞和	9	7
13	045	亀ヶ崎剣道	吉川 文彦	13	2	54	238	酒田 J r . K	大崎恵美子	18	4
14	046	亀ヶ崎卓球	木山 敏広	20	3	55	257	S R Kジュニアクラブ	富樫 隆夫	60	2
15	051	松原サッカー	佐藤 喜一	17	2	56	258	S R Kキッズクラブ	後藤 良	14	3
16	052	松原野球	後藤 亮	25	6	57	277	酒田宮野浦少林寺拳法	加藤 明男	4	3
17	053	松原ミニバスケットボール	菅原敬太郎	32	9	58	300	若浜卓球	渡邊 孝介	10	6
18	054	松原バレーボール	澁谷 和仁	10	2	59	301	若浜サッカー	渡會 徹	35	3
19	055	松原剣道	松田 美法	5	2	60	302	若浜ミニバスケットボール	宮田 崇志	38	2
20	056	松原卓球	滝澤 琢也	6	2	61	304	若浜バレーボール	武田 正祐	11	4
21	071	松陵	高橋 大	73	9	62	308	酒田市柔道	新田 道隆	18	3
22	081	泉学区サッカー	石川 真喜	12	5	63	309	和鷲会	齋藤 等	26	2
23	082	泉野球	村上 太郎	13	8	64	401	八幡バレーボール	後藤 信人	10	2
24	083	泉ミニバスケットボール	池田 郁雄	22	3	65	402	一條サッカー	富樫 浩明	14	4
25	084	泉バレーボール	長谷川 司	10	4	66	404	八幡男子ミニバスケットボール	村上 智志	30	5
26	086	泉卓球	小笠原勝喜	8	5	67	407	Y.I.Cミニバスケットボール	池田 公平	15	4
27	099	西荒瀬	綱淵 芳幸	4	3	68	408	酒田市空手道	佐藤 英俊	11	2
28	103	新堀ミニバスケット	齋藤 純	16	4	69	502	松山剣道	三浦 均	1	2
29	104	新堀野球	太田 雅人	5	2	70	503	松山サッカー	石川 直紀	15	3
30	105	新堀剣道	斎藤 裕喜	1	2	71	504	松山ジャンプガールズミニバスケットボール	阿部 幸義	17	3
31	110	レンジャーズ野球	柿崎 浩幸	20	4	72	600	秋真館	長谷部 勝	6	3
32	119	広野	進藤 公成	19	10	73	602	南平田卓球	石黒 昌弘	2	4
33	129	浜中	川村 広道	23	5	74	605	平田ジュニアサッカークラブ	後藤 学	20	4
34	139	黒森	榎本 亜紀	1	2	75	607	平田小学生陸上	斉藤 淳	58	4
35	141	十坂サッカー	高橋 優介	11	4	76	608	南平田ミニバスケットボール	菅谷 浩二	8	2
36	142	十坂野球	佐藤 健	12	8	77	701	庄内バレー道場	小野寺 昭	12	2
37	143	十坂ミニバスケ	佐藤 祐介	9	9	78	702	TSN・Dears	酒井 健司	18	7
38	144	十坂バレーボール	加藤 裕介	11	5	79	800	東部 J B C 野球	久保田 潔	16	7
39	145	十坂剣道	佐藤真紀子	2	3	80	801	CJヤンキース	佐藤 宏明	20	9
40	146	十坂卓球	豊田 航太	4	2	81	802	酒南ジュニア柔道クラブ	安達 芳久	11	2
41	147	十坂キッズ	清水 和久	8	4	合 計				1,293	335

※本号から指導者数には「役員・スタッフ」を含めておりません。

令和4年度 スポーツ少年団主催大会種目別結果

種目	大会名	期日	会場	結果
サッカー	第50回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部サッカー大会	7月16日～17日	庄内空港緩衝緑地運動広場	優勝 平田 2位 亀ヶ崎 3位 若浜
野球	第50回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部野球大会	7月16日～18日	光ヶ丘野球場 泉小学校グラウンド	優勝 レンジャーズ 2位 宮野浦 3位 松原・CJヤンキース
バスケットボール	第49回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部バスケットボール大会	8月13日～14日	国体記念体育館	男子 優勝 泉 2位 八幡 3位 新堀 女子 優勝 Y U Z A 2位 松原 3位 陵成
卓球	第53回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部卓球大会	8月21日	酒田市体育館	男子団体 優勝 泉 2位 亀ヶ崎 3位 若浜 女子団体 優勝 若浜 2位 松原 3位 亀ヶ崎 ホープス男子 優勝 佐藤 陽斗(遊佐町) 2位 小松 優太(富士見) 3位 本間 遙樹(琢成)・平 幸晟(泉) ホープス女子 優勝 佐藤 花帆(富士見) 2位 佐藤 瑚夏(ひらた) 3位 菅原 梨那(富士見)・佐藤 樹(琢成) カブ男子 優勝 佐藤 太昂(泉) 2位 佐藤 光希(琢成) 3位 奥山 篤那(南平田)・齋藤 眺真(琢成) カブ女子 優勝 阿部 優奈(泉) 2位 佐藤 玲咲(ひらた) 3位 阿部 沙也(亀ヶ崎)・栗田 奈侑(亀ヶ崎) カブ新人男子 優勝 中鉢 貴泉(琢成) 2位 土田 大和(ひらた) 3位 杉山 颯真(若浜) カブ新人女子 優勝 門脇 優(亀ヶ崎) 2位 山本 滯(若浜) 3位 村上 稀葉(若浜)・風間 美遥(泉)
バレーボール	第43回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部バレーボール大会	8月28日	国体記念体育館	男子 優勝 宮野浦 2位 庄内バレー道場 女子 優勝 松原 2位 宮野浦 3位 松陵・遊佐 混合 優勝 若浜 2位 亀ヶ崎 3位 十坂
剣道	第47回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部剣道錬成大会	8月28日	国体記念体育館	男子団体 優勝 松原 2位 秋真館 3位 亀ヶ崎・合同 女子団体 優勝 遊佐A 2位 亀ヶ崎 3位 合同

酒田市スポーツ少年団本部からのお知らせ

●スポーツ少年団指導者制度の改定

令和2年度より、スポーツ少年団の新たな指導者資格制度「スタートコーチ(スポーツ少年団)」「コーチングアシスタント」が始まりました。どちらも日本スポーツ協会(以下JSPPO)公認スポーツ指導者資格となっており、4年に1度の更新が必要です。

これに伴い、スポーツ少年団への指導者登録にはJSPPO公認スポーツ指導者資格の保有が必須となりました。令和5年度までは、資格の移行期間の措置として、旧指導者資格の「認定員」が保有することができません。

「スポーツリーダー」のみ保有する方が令和6年度以降も指導者登録を行いたい場合、「コーチングアシスタント」に資格を移行することで登録が可能になります。資格の移行は、初回は講習等が免除されウェブ上での手続きで移行できます。

◆申請期限は令和5年11月30日です。

●JSPPO公認スポーツ指導者資格の取得に対する費用を補助しています

JSPPO公認スポーツ指導者資格の取得には、資格登録料として1万円(更新期間4年)、初期登録手数料として3千円の費用が発生します。

指導者並びに単位団の負担を少しでも軽減し、新指導者制度への円滑な移行を図るため、酒田市スポーツ少年団本部では、「スタートコーチ(スポーツ少年団)」

「コーチングアシスタント」の資格取得に係る費用に対して左記のとおり補助を行っています。

◆補助金額／1団体につき1万円

◆各団1回限りとします。

◆初回登録から4年後の資格更新に係る費用については補助を行いません。

◆指導者制度の改定について、詳しくは

JSPPOホームページ

「スポーツ少年団」

の「指導者養成」を参照してください。



令和4年度酒田市スポーツ少年団本部表彰

- ◆木山 敏広(亀ヶ崎卓球)
- ◆佐藤 雅紀(亀ヶ崎卓球)
- ◆佐藤 充(亀ヶ崎卓球)

(敬称略)

問い合わせ・連絡先

酒田市スポーツ少年団本部事務局

〒998-8540

酒田市本町二丁目2番45号

酒田市教育委員会
スポーツ振興課内

☎0234-43-6651

✉sports@city.sakata.lg.jp